

青森県立中央病院 キャリアラダー概要(JNA準拠)

ラダーレベル(クラス)	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ	
対象者	レベルⅠ研修者	レベルⅠ修了者	レベルⅡ修了者	レベルⅢ修了者	レベルⅣ取得者	
活動範囲	個人	チーム内	チーム内	所属部署内	所属部署 所属部署以外	
レベル毎の目標	①基本的な看護手順に従い必要に応じ指導・助言を得て看護を実践する ②看護師としての基礎を確立する ③自己の看護の課題を見出す	①標準的な看護計画に基づき、自立した看護実践ができる ②看護師として自立する ③自己課題に積極的に取り組む	①ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する ②チームリーダーとしての基礎を確立する ③キャリアプランを立案できる	①幅広い視野で予測的な判断をもち看護を実践する ②看護活動のリーダーとしての基礎を確立する ③キャリア開発に取り組み、役割モデルとなる	①より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する ②高度な看護活動を実践し、役割モデルになる ③研究活動を推進し、看護の質の向上に貢献する	
看護実践能力	ニーズをとらえる力	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえ、看護過程が展開できる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえ、看護過程が展開できる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえることができる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえることができる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえてニーズをとらえることができる
	ケアする力	指導・助言を得ながら、安全・確実に看護実践ができる	ケアの受け手や状況(場)に応じた、個別性を活かした看護実践ができる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護が実践できる	様々な技術を選択・応用し、看護を実践できる	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
	協働する力	多職種(関係者)との連携を学び情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し最適な手段を選択できる
	意思決定を支える力	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知ることができる	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意志決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々に意志決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意志決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
組織的役割遂行能力	基本姿勢・役割・責任	指導を受けて、メンバーとしての行動ができる	①メンバーの役割を遂行し、指導を受けて日勤のリーダーとして、行動ができる ②レベルⅠの看護師に対して指導ができる	①指導を受けてチームのリーダーとして、行動ができる ②レベルⅠ・Ⅱの看護師に対して指導ができる	①所属部署のリーダーとしての役割が遂行できる ②レベルⅠ～Ⅲの看護師に対して指導できる	①所属部署および所属部署以外においてリーダーとしての役割が遂行できる ②レベルⅠ～Ⅳの看護師に対して指導ができる
	リスクマネジメント	安全確認の行動が、実践できる	事故発生のリスクを考え、安全確認行動ができる	事故発生の要因を分析し、安全対策行動ができる	所属部署の事故防止に向けた取り組みを推進できる	所属部署の事故防止に向けた取り組みを推進できる
	感染管理	指導を受けて、標準予防策ができる	感染経路を理解し、適切な対応が実践できる	感染拡大の要因を理解し、適切な対応が実践できる	所属部署の感染防止に向けた取り組みを推進できる	所属部署の感染防止に向けた取り組みを推進できる
	経済性	コスト意識を持ち、指導を受けて1日の業務計画を立案、実践できる	業務の優先度が理解でき、一日の業務計画が立案・実践できる	①管理の必要性について理解し、業務が遂行できる ②チーム内の1日の業務計画を理解し、実践できる	①病院経営に貢献できる ②所属部署での一日の業務計画を立案し、実践できる	①病院経営に貢献できる ②所属部署の業務の効率化のために、改善・提案をし、職員教育を推進できる
自己教育・研究能力	自己教育・研究	①看護実践を振り返り、自己学習できる ②指導を受け看護実践を通して、自己の看護の課題を見出すことができる	①自己の看護の課題に対して、積極的に取り組むことができる ②看護実践を通して、自己の看護の課題を見出すことができる	①自己課題を明確にし、キャリアプランを立案できる ②研究的視点を持ち看護実践に活用することができる	①自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に取り組む、後輩の役割モデルとなることができる ②日々の看護実践の中で、研究に取り組むことができる	①計画的・組織的に学習することができる ②研究活動を推進し、看護の質の向上に貢献できる